

パラグアイ COPANI 大会 一次世代へのエールを

アルベルト 松本

コロナ禍でなければ今年2021年の9月か10月ごろ、パラグアイの首都アスンシオンでアメリカ大陸の日系人リーダーや次世代の若手が集まるパンアメリカン日系人大会 COPANI ((Convención Panamericana Nikkei、以下 COPANI 大会) が開催される予定だった。この大会は、毎年日本で開催している海外日系人大会¹と類似しているが、アメリカ大陸の日系人が米州のどこかで二年に一度集まる国際会合である。パンアメリカン日系人協会(PANA: Panamerican Nikkei Asosociation) という組織が開催都市を決めるのだが、その主な目的は南北アメリカ日系人の交流と相互理解にある。大会への参加条件は緩やかで、発表者もその時々の話題や状況に応じて日系人・非日系人を問わず選任し、開催国が定めた日程で、プログラムは基調講演と分科会、見学コース等から成る。

第1回目のCOPANI 大会 (1981年メキシコシティで開催) は、当時の世代交代の流れや日系人の社会進出の必要性、ラテンアメリカ（中南米）だけではなく北米の日系人との交流や連携を重要視したリーダーたちの問題意識から誕生した。創設者の一人はメキシコの日系実業家カルロス春日氏であるが、同氏のこれまでの中南米日系社会への多大な貢献なしに40年間も COPANI 大会が継続することは難しかったと言える²。前回は「2019年サンフランシスコ大会」³であったが、米国ならでのトピックで、中南米や日本から参加した者にとって印象的だったのは、やはり元運輸長官のノーマン・ミネタ氏の基調講演であった。日系人でありながらの第二次世界大戦での収容体験と戦場での役割、その後の政治家としての活動、そしてクリントン政権とジョージ・W. ブッシュ政権で閣僚として任務を遂行したその壮絶な生き様は、参加者に大きな感動を与えた⁴。

私がはじめて COPANI に参加したのはまだ大学生だった1987年のブエノスアイレス大会だが、その後は日本留学等によって参加できず、仲間と再会できたのは2005年のカナダ・バンクーバー大会である。それ以降はすべての COPANI 大会に出席し、日本の南米日系コミュニティーの様々な課題や、日本の司法制度や法律について発表する機会を得てきた。こ

うした縁で、パラグアイの日系人とも親しくなり、2012年にはじめてアスンシオンを訪れ、エミ笠松氏や中堅の日系指導者と懇談するようになり、日本人会や日本語学校を訪れ、法曹界の方々とも交流を深めてきた。二回目は国際協力機構 (JICA) 主催の「中南米次世代日系指導者シンポジウム 2013」の講師として招かれたときである。

COPANI 大会では、地元日系人の団結力と機動力が發揮され、以前から日本の研究者や学生も参加している。また、どの開催国であっても日本国大使館または総領事館、JICA 等の職員が公私にわたって参加し、近年は日本からも政府高官が出席することで、日系人にとってこのうえないモチベーション向上と意見交換の場になっている。2017年のリマ大会には外務省中南米局の林 穎二参事官（現局長）が、そして2019年のサンフランシスコ大会には元駐ブラジル大使の佐藤 悟氏が中南米日系社会連携担当大使として日本政府を代表して出席している。

パラグアイでの COPANI 大会は今回で2回目になる。最初の大会は30年前の1991年、当時から日系社会の重鎮だったエミ笠松女史が実行委員長を務め見事に成功した。開会式にはロドリゲス大統領とバエスケン外相らが出席している⁵。今回の大会は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 禍の影響によってやむを得ず延期になっているが、来年の後半頃安全に人の移動や大規模な集会が可能なのか、ワクチン接種によって米州大陸内の渡航がスムーズになっているのか、等々によって最終的な日程が決まるに違いない。ただ、どの中南米諸国もコロナ禍で経済的・社会的インパクトがありにも甚大で、大会のテーマや議論の内容もそれに左右されるかも知れない。日系人のさらなる社会統合と各分野での貢献、コロナ後の中南米全体での社会的役割を検証するのも良いかも知れない。

パラグアイには日系人約1万人が居住しており、首都アスンシオンから130km離れたところにある「ラ・コルメナ移住地」が1936年の第1陣の入植者である。その他の移住地はすべて戦後に創立されており、日本政府の分譲によって実現した。その一つ

が日本のテレビでもよく紹介される「イグアス移住地」である。入植当初は原始林の開拓、数々の苦難や不作、仲間の離脱、言葉にできないぐらいの挫折を味わい、それでもJICAの支援もあって前に進んだことで、近年これらの移住地が入植60周年を迎えている⁶。こうした団結が日本語教育にも反映されており、日本人会のもとで運営されている日本語学校は日本語という語学だけではなく日本文化の継承の場になっている。日本より、成人式、文化祭、敬老の日、盆踊り等を大切にし、学校では入学式、学芸会、運動会、遠足、修学旅行、そして終業式を実施する。今はこうした学校にも非日系の児童・生徒も来るようになり教育機関としてもっと高度な役割が求められている。

しかし多くの努力による地域開発と繁栄にもかかわらず、一部移住地の不耕地では不法占拠事件もまだ時々発生しており、こうした状況を防ぐにはやはり日系人の積極的な司法や政財界への進出が求められている（地域レベルでの政治参加はすでに存在する）。弁護士や警察官、軍人として活躍している日系人は多数いるようだが、中枢の業界団体や政策にも影響を与えることができる人材はもっと必要である。

エステ市やエンカルナシオン市にも商業、飲食業や金融業等を営んでいる日系人が多数いるが、他の

アジア人や外国人コミュニティー、主にブラジル人経営者との激しい競争を生き抜いたパイオニアたちである。

そしてイグアス移住地等は、1980年代に不耕起栽培を導入してからそれまでの大雨による土壌消耗を食い止め、見事に大豆栽培で成功したのである⁷。このイグアス周辺には観光開発も展開されており、日系人経営の「Pikypo 広場」や「アサヒリゾート」等は日本からの観光客にもエコツーリズムが満喫できるよう工夫されている。そして毎年8月には農商工業ExpoYguazuが開催されているのだが、現在パラグアイでいかなる野菜も栽培し販売されているのは日本人移住者の功績の一つである⁸。

2018年にはパラグアイ日本人移住80周年という節目を迎え、記念式典には日本政府関係者だけではなく皇室を代表して秋篠宮眞子内親王殿下もご臨席し、その後一週間の日程でいくつかの移住地や世界歴史遺産である「イエズス会伝導所群」を訪れたのである。このとき地元日系人の若手や団体中堅幹部が祝賀事業に関わり、そのマネジメントには日系女性リーダーたちの役割は大きくSNSでもその活動ぶりが紹介された。パラグアイ日系社会のスポーツイベントや南米ユース交流事業には以前から関わっていた指導者たちだが、この記念事業にはすばらしい



2017年のリマCOPANI大会の夕食会。リマではペルー日系人協会(APJ)の100周年を同時に祝い盛大な式典であった。パラグアイから出席したのは日系社会の重鎮たちである（元パラグアイ日本人会連合会のエドゥアルド檜垣ご夫妻、在パラグアイ日本商工会議所会頭の田中ご夫妻、女性リーダーの西島美佳氏など。着席者の正面は執筆者）

連携と運営能力を示したと言える。いずれ開催されるCOPANI大会でも、彼女たちの役割に大いに期待できるに違いない。そしてその年の12月に日本との修好100周年記念式典に出席したのが日本の総理大臣としてはじめてパラグアイを公式訪問した（当時の）安倍首相である。中南米日系社会に多大な理解とサポートをしてきたこれまでにない日本の政治家である⁹。

一方、パラグアイ日系社会は二人の駐日大使を輩出している。一人はラパス移住地の重鎮でその行政区の市長も長年務めた田岡功氏で、もう一人は実業家の豊歳直之氏である。この二人に共通するのは日本生まれであることだが、パラグアイ政府は両者のそれまでの功績と日本との関係強化を期待して駐日大使に任命したのである¹⁰。

パラグアイほど親日的な国はないと言われるほど日本に対する思いが強い。とはいってもまだ課題も多い国であり、インフラ整備や構造的な貧困や教育の質向上はこれから持続可能な発展には欠かせない要件である。人口700万人という市場規模だが、注目の大豆輸出も大手外資系企業を通じてほとんどがブラジルとアルゼンチンに購入されている。エステ市マキラ保税地区には多数の日本企業がブラジル経由で進出しているが、もっと付加価値の高い製造業もしくはサービス業を展開する必要もある。以前この地を訪問した際フジクラ（本社－名古屋）の電装工場を見学したが、ここの従業員のほとんどは女性労働で三交代勤務であるため託児所と保健室が完備され、パラグアイで最も欠勤率と離職率が低く、日本語が堪能な日系人技師が多数採用されていた。

COPANI大会は、日系社会としてこれまで以上にどのようにSDGs（国連の持続可能な開発目標）を達成しながら社会に貢献できるのか、隣国の日系人どのように連携して他の事例から学べるのかを知り、親善と協力が強化できる絶好の機会である。そうした認識を持って地元の非日系人有力者とともに大会のテーマや分科会を進めることによって互いの理解がもっと深まるに違いない。不耕起栽培で有名なイグアス移住地の見学オプションや、移住地の日系指導者らとの懇談もいい刺激になるかも知れない。穀物や畜産、農加工業などでかなり豊かになった移住地だが、この繁栄をある程度持続可能にするには次世代の若者が関心を持てるテーマやイベント企画も忘れてはならない。日系人の会合であるが、非日系人の若者や専門家も参加しやすくするのも新たな発見になるに違いない。

若者はミレニアル世代とZ世代と言われる超デジタル世代であるが、彼らへのアプローチは我々の時代とかなり異なり、オンラインで世界中と繋がることを得意とする。しかし、明確な目的と議論の課題を示さなくてはパラグアイまで来てもらえないだけではなくZoom会議にさえ顔を出してくれない。この世代の若者は、答えがでない課題であっても実現可能な小さな目標には積極的に参加し問題意識も共有する。ときにはあまりにも物事を単純化してしまう側面もあるが、そこに諸先輩の体験や成功または失敗事例をうまく伝えることも良いかも知れない。また、日本にはパラグアイ人コミュニティーがあり、現在2,161人である。多くは1990年代の日系就労者とその家族であるが、毎年10月には東京・練馬区の



2019年のサンフランシスコCOPANI大会のアルゼンチン代表団との記念写真。中央には元運輸長官のノーマン峯田氏（大会で基調講演を行った。なお、右から2人目は執筆者）

光が丘公園で「パラグアイ・フェスティバル」を開催している¹¹。在日の子供たちは日本で教育を受け、少しづつだが大学で学位を得ているものもいる。こうした新たなネットワークをパラグアイからやってくる留学生とも結びけることは十分可能である。

手応えのあるCOPANI大会にするには、やはりいくつかの世代観をマッチングしなくてはならず、企画の段階からかなりの労力と議論が求められる。そしてCOPANIが2022年に実施されるにはコロナ禍の今後の状況によるが、パラグアイをまた訪れ多くの仲間と再会し議論することは、今からの楽しみである。

追記:この原稿脱稿前日(6月5日)に、「COPANIパラグアイ大会」の実行委員長マルティン奈良氏がコロナ感染によって亡くなられたという訃報が入った。この場を借りて慎んでお悔やみを申し上げる。後任の実行委員長は未定だが、この国の日系社会はきっとこのコロナ禍を乗り越えて彼の分まで立派にやり遂げると確信している。

参考文献:

- ・浅香幸枝、「第5章：パンアメリカン日系協会」、「地球時代の日本の多文化共生政策－南北アメリカ日系社会との連携を目指して」、明石書店、2013年
- ・EMI KASAMATSU, Historia de la Asociación Panamericana Nikkei - Presencia e inmigración japonesas en las Américas, APN/Servilibro, 2005 <http://www.discovernikkei.org/ja/interviews/profiles/90/>
- ・Inmigración Japonesa al Paraguay -Leyenda y Tradición escrita en 75 años de historia 1936-2011 (『パラグアイ日本人移住75年誌』一冊に両言語で書かれた記念誌で、2011年発行)
- ・アルベルト松本、Discover Nikkei : <http://www.discovernikkei.org/ja/users/albertomatsumoto/>
- ・日本貿易振興機構 (JETRO) サイト「パラグアイ」: https://www.jetro.go.jp/world/cs_america/py/ Jetro Global Eye 「パラグアイの可能性 2019」10分 https://www.youtube.com/watch?v=3Rr_Hs4DlGs
- ・パラグアイ観光ビデオ 2分: <https://www.youtube.com/watch?v=29Vx8Y1wzrE>
- ・田中祐一、「南米の真ん中、アスンシオン市」ラテンアメリカ都市物語『ラテンアメリカ時報』2018/19年冬号
- 1 大会の趣旨等はサイトにて説明されている。昨年2020年のはすべてオンライン大会になった。
<http://www.jadesas.or.jp/taikai/index.html> <http://www.jadesas.or.jp/taikai/2020.html>
- 2 カルロス春日氏及び米大陸の組織設立については、2011年に執筆した記事を参照: <http://www.discovernikkei.org/ja/journal/2011/6/2/3929/> ガリンド先生の記事: <http://www.discovernikkei.org/ja/interviews/profiles/140/> https://www.sf.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/20_0206.html <https://www.sankei.com/article/20150514-7YQWHUR44RPTBAQELRHICWUXY4/> 産経新聞、2015.5.14
- 3 Tomo Hirai, Hundreds of Nikkei gather in S.F. for biennial international conference, Nichi Bei Weekly, September 26, 2019 <https://www.nichibei.org/2019/09/hundreds-of-nikkei-gather-in-s-f-for-biennial-international-conference/> <https://www.facebook.com/Copani2019/> 大会の写真や編集されたビデオも掲載されている。
- 4 <https://www.discovernikkei.org/ja/interviews/profiles/140/> <https://www.sankei.com/article/20150514-7YQWHUR44RPTBAQELRHICWUXY4/> 産経新聞、2015.5.14
- 5 2018年JICAパラグアイのエミー笠松氏へのインタビュー: https://www.jica.go.jp/paraguay/office/activities/priv_partner/20181127.html この大会には、日本からは海外日系人協会の田村景一専務理事等、ブラジルからはシゲアキ植木元鉱業大臣が基調講演を行い、下元健吉下院議員も出席した。そして、ペルーのフジモリ大統領夫人スナ樋口氏からのメッセージが代読されている。
- 6 移住地や日本人が居住している都市部のマップ、JICAパラグアイ事務所サイト: <https://www.jica.go.jp/paraguay/office/activities/immigrant/02.html> 日本人移住80周年 1936-2016, 3分: <https://www.youtube.com/watch?v=ZaWmz8FtZ7k> 日本語字幕
- 7 北中、藤城、細野、伊藤『パラグアイの発展を支える日本人移住者－大豆輸出世界4位への功績と産業多角化への新たな取り組み－』佐伯出版、2019年。この著書には、移住地の葛藤、日本の専門家や技術者の支援、JICAや関係機関との協働事業が、パラグアイ農業、そしてアグロインダストリーの発展に貢献していることが詳細に綴られている。
- 8 イグアス周辺の観光スポット <http://bienvenidoaparaguay.com/showdata.php?xmlcity=207&xmldestino=393> <https://www.facebook.com/ParqueAsahi/> <https://www.facebook.com/ExpoYguazu/> 最近、パラグアイの公用語であり日系人も普通に話すグアラニ語の世界と文化を体験できるサーキットが開設された。 https://www.facebook.com/MundoGuarani/?__xts__=0
- 9 真子内親王のパラグアイ訪問(2018年8月) <https://www.kunaicho.go.jp/page/okotoba/detail/13> <https://www.youtube.com/watch?v=NuCDYn6jeew> 9 min. 真子内親王訪問記録映像
安倍総理のパラグアイ訪問(2018年12月) https://www.mofa.go.jp/mofaj/p_pd/ip/page4_004559.html
- 10 田岡大使は2004年から2009年まで、豊歳大使は2009年から2018年まで駐日大使を務めた。両者とも、上院の承認が必要なので、事前にパラグアイ国籍を取得している。
<http://www.discovernikkei.org/ja/interviews/profiles/132/> 田岡大使インタビュー <https://www.nikkeyshimbun.jp/2009/091008-63colonia.html>
- 11 <http://paraguayfestival.com> この事業の企画にはJICAのOB会、パラグアイに派遣された元強力隊員が積極的に参加しておりここ数年多くの観客を集めており、イベントには駐日大使らも出席する。 <https://www.facebook.com/paraguay.festival.in.Tokyo/> https://www.youtube.com/watch?v=BQ_trYZl6E4 3分半

(あるべると まつもと IDEA NETWORK 代表)